

# 「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1 調査の概要

### (1) 調査対象

小学校6年生の児童、中学校3年生の生徒

### (2) 調査期日

令和5年4月18日（火）

### (3) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、外国語）下記 i, ii を一体的に問う。

i 身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

ii 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## 2 教科に関する調査結果

### 1 大津町と熊本県、全国の平均正答率の比較

#### (1) 小学校 7校

《小学校》 6年生	大津町	熊本県	全国
国語	65	67	67.2
算数	58	61	62.5

#### i 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)	
全体		14	65	67	67.2	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	68.9	71.9	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.7	62.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	69.5	72.7	72.6
B 書くこと		1	27.3	27.5	26.7	
C 読むこと		3	68.6	71.1	71.2	
評価の観点	知識・技能	7	66.3	69.1	68.9	
	思考・判断・表現	7	63.1	65.5	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	71.5	73.2	73.6	
	短答式	2	54.5	62.8	62.7	
	記述式	3	51.1	52.7	51.1	

○ 「思考力、判断力、表現力等」B書くことは、全国平均を上回った。

▼ 領域、観点のすべてが熊本県の平均正答率を下回り、全国の平均正答率は、「思考力、判断力、表現力等」B書くこと以外下回った。

最も大きく下回っている観点は、「知識及び技能」の情報の扱い方に関する事項であり、その中の「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題において、55.8%の正答率であり、県に比べ6.2%下回っていた。また、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使いに関する事項」では、「意外」を文脈に合わせて書くことについて40.4%の正答率であり、全国や県に比べて約13%下回った。

また、問題形式では記述式が他の形式よりも正答率が低い結果だったが、差は大きくないものの、依然自分の考えを記述する力に課題がある。

## ii 算数

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			責教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)
全体		18	58	61	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	3	61.2	66.0	67.3
	B 図形	4	43.8	45.6	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	66.6	69.1	70.9
	D データの活用	3	60.9	64.7	65.5
評価の観点	知識・技能	9	62.5	65.8	67.2
	思考・判断・表現	7	51.6	54.8	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	52.0	55.9	57.7
	短答式	7	70.8	73.6	74.7
	記述式	4	42.2	45.3	47.3

○ 「椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使ってかく」「二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く」問題について、全国及び県の正答率を下回ったものの僅差であった。

▼ 領域、観点のすべてが全国、熊本県の平均正答率を下回った。

全国平均との差が5ポイント以上下回った問題が、9つあるが、うち「知識・技能」が5つであり、最も差の大きかった問題は、「思考・判断・表現」の「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」問題で10.1ポイント下回った。

### (2) 中学校(2校)

《中学校》 3年生	大津町	熊本県	全国
国語	65	69	69.8
数学	43	48	51.0
英語	36	42	45.6

## i 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			責教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)	
全体		15	65	69	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	60.8	65.6	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	57.6	62.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	70.6	76.2	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	80.3	81.7	82.2
		B 書くこと	2	58.7	60.5	63.2
		C 読むこと	4	59.5	63.2	63.7
評価の観点	知識・技能	7	64.1	69.2	69.4	
	思考・判断・表現	9	66.3	68.8	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	68.5	71.7	73.1	
	短答式	4	60.2	64.9	65.6	
	記述式	4	64.7	68.0	68.0	

○ 「思考力、判断力、表現力等」A話すこと・聞くことの領域は、全国平均正答率を下回ってはいるものの、「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかみる」問題は県の正答率を上回り、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかみる」問題については僅差で下回った。

▼ 領域、観点のほとんどが全国、熊本県の平均正答率を下回った。特に5ポイント以上下回った問題は7つあり、最も下回ったのは「意見と根拠など情報と情報との関係について

理解しているかどうかをみる」問題であり、続いて「押し量る」という漢字を書く問題、「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容をとらえることができるかどうかをみる」問題であった。

## ii 数学

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)
全体		15	43	48	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	52.3	58.3	63.0
	B 図形	3	26.1	28.6	33.2
	C 関数	4	43.9	49.7	51.2
	D データの活用	3	42.4	47.2	48.5
評価の観点	知識・技能	10	47.3	52.6	55.7
	思考・判断・表現	5	33.8	38.3	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	35.1	40.8	45.3
	短答式	6	55.5	60.5	62.6
	記述式	5	33.8	38.3	41.6

▼ 領域、観点のすべてが全国、熊本県の平均正答率を下回った。特に「数と式」の領域が全国平均より10.7ポイント下回っており、大きな課題である。自然数の意味を理解すること。四分位範囲の意味を理解することや目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができることについて、特に課題であった。

## iii 英語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	熊本県(公立)	全国(公立)
全体		17	36	42	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	48.7	54.0	58.4
	(2) 読むこと	6	41.6	47.7	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	14.1	19.5	23.4
評価の観点	知識・技能	9	40.0	47.5	51.5
	思考・判断・表現	8	31.5	35.0	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	45.1	50.9	54.8
	短答式	3	17.9	25.1	30.1
	記述式	2	8.5	11.2	13.5

○ 「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」問題の「買い物の場面における会話を聞き、その内容を表す絵を選択する」問題について、問題三つのうち一つは、県平均正答率を0.4ポイント上回った。

▼ 領域、観点が全国はすべて、熊本県は上記の一つを除いて平均正答率を下回った。特に10ポイント以上の差があったのは、(1)聞くことの「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」問題2つ、「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る」問題、(2)読むことの「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る」問題、(5)書くことの「疑問詞を用いた一般動詞の二人称単数過去形の疑問文を正確に書くこと」の問題等で、もっとも差が大きかったのは「未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書く」問題は、17.1ポイントであった。8つのうち6つが「知識・技能」の問題であることから基礎基本の確実な習得に加え、状況に合わせて表現したり、判断したりする力を伸ばす必要がある。

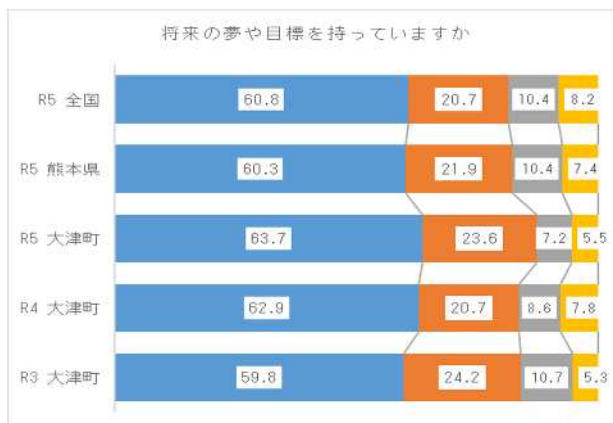
### iii 英語（話すこと）

対象生徒数		大津町教育委員会		全国（国公立）
		350		814,888
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（％）*	
			貴教育委員会	全国（国公立）
全体		5	7	12.4
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと【やり取り】	4	8.2	14.5
	(4) 話すこと【発表】	1	1.4	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観点	知識・技能	3	6.1	13.9
	思考・判断・表現	2	8.0	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式／口述式	3	6.1	13.9
	記述式／口述式	2	8.0	10.1

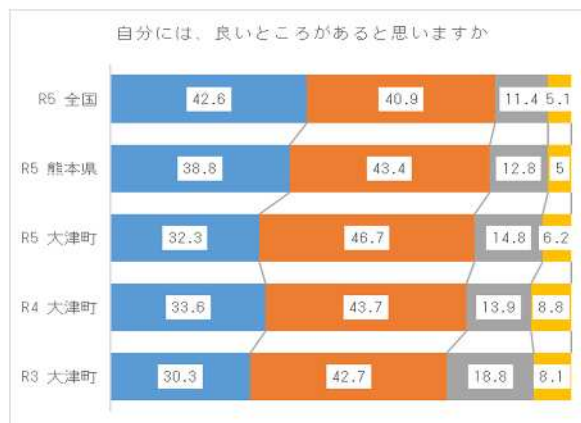
▼ 領域、観点のすべてが、全国を下回った。思考・判断・表現の観点では、僅差であったものの、知識・技能については、－7.8％であった。特に差が大きかったのが、即興的なやりとりの中で、場面に応じて疑問文を使うことであり、正答率は4％であった。また、基本的な内容である象の誕生日を伝える問題について、正答率が10.9％であった。いずれの問題においても、即興的なやりとりの中で回答する問題であり、こうした状況に合わせた反応への不慣れさも結果の要因と考えられる。さらに、どの問題も無解答率が20％を超えていることも課題である。今後、学んだことをそのやりとりの中で正しく使う力をつけていく必要がある。

### 3 質問紙による調査（1）小学校

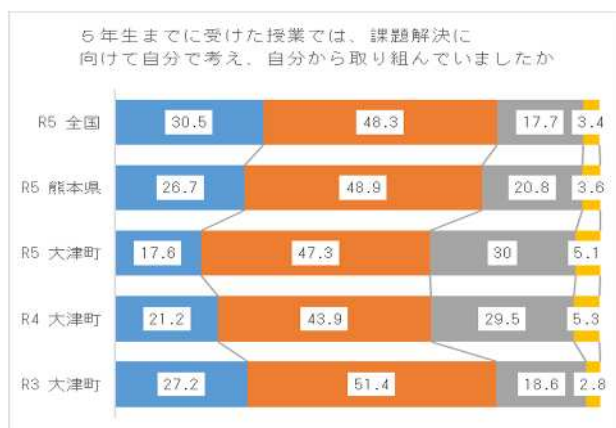
#### ① 将来の夢（キャリア教育）



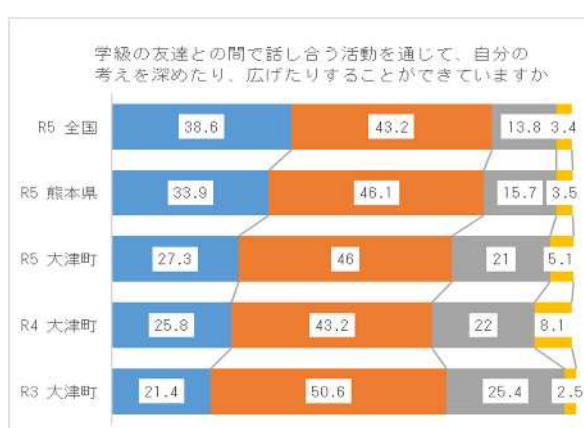
#### ② 自己肯定感（特別活動）



#### ③ 主体的な学び

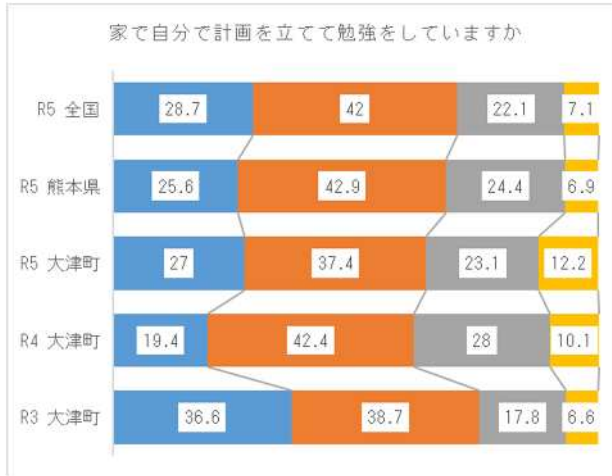


#### ④ 対話的な学び、深い学び



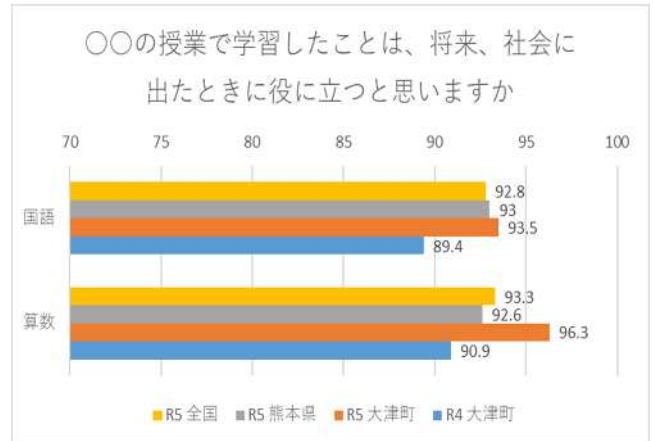
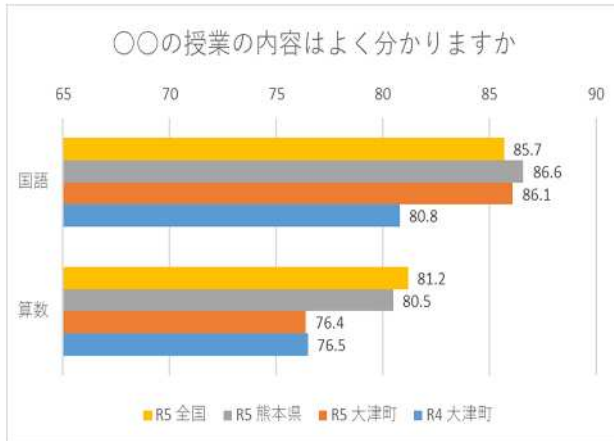
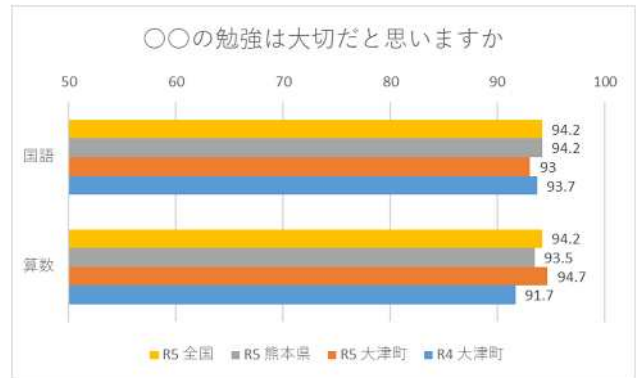
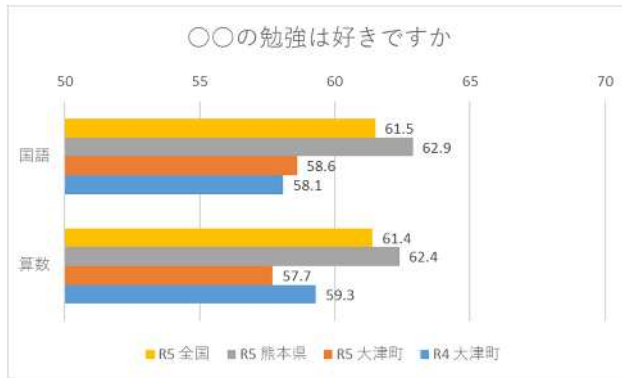


⑤ 計画性



○将来の夢については、肯定的な回答が全国や県の数値を上回った。また、昨年度の大津町の結果より伸びている。  
 ▼自己肯定感、対話的な学び、深い学び、計画性の部分で肯定的な回答が全国や県を下回ったものの、前年度を上回り意識の向上は見られる。

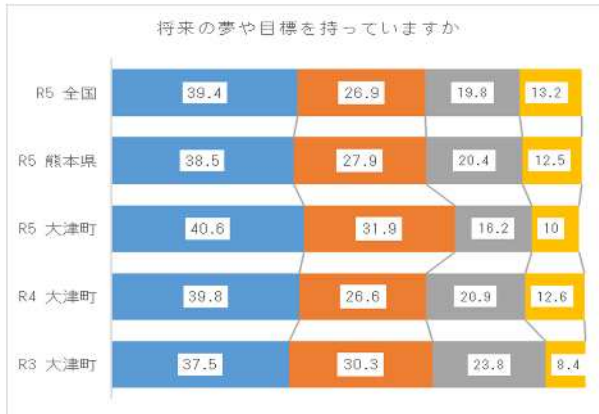
⑥ 教科の学習について（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）



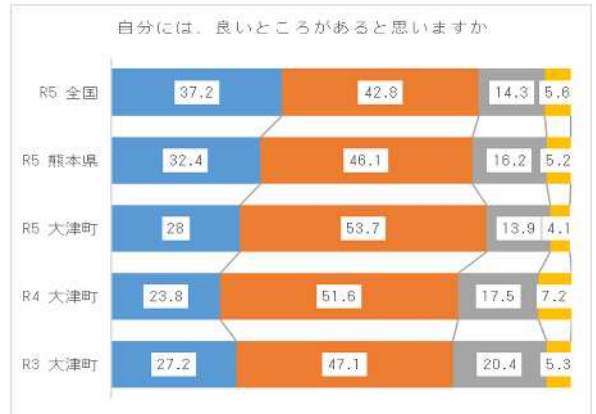
○教科の勉強は大切だと思っている児童の割合は依然として高い。また、授業がよくわかるかという質問に対して、国語の割合は前年度より増加しており、学んだことが役に立つという意識は、全国や県を上回った。  
 ▼教科の「好きですか」の質問は、国や県を下回り、「わかるか」という質問について算数は全国や県に5ポイント程度下回っている。主体的な学びの肯定的な回答の結果と関連して考えると、理解できないことが、自ら学ぼうとする意欲の低下に結びついていると考えられ、児童が学ぶ楽しさやわかる楽しさを実感できるような手立てが必要である。

(2) 中学校

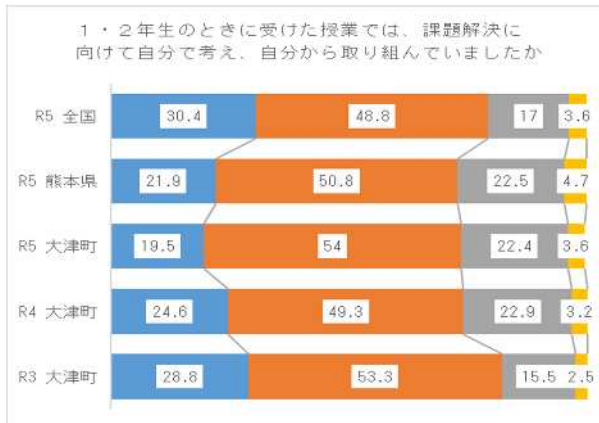
① 将来の夢 (キャリア教育)



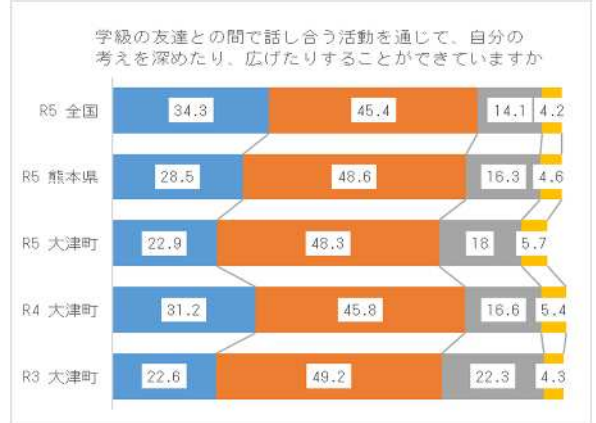
② 自己肯定感 (特別活動)



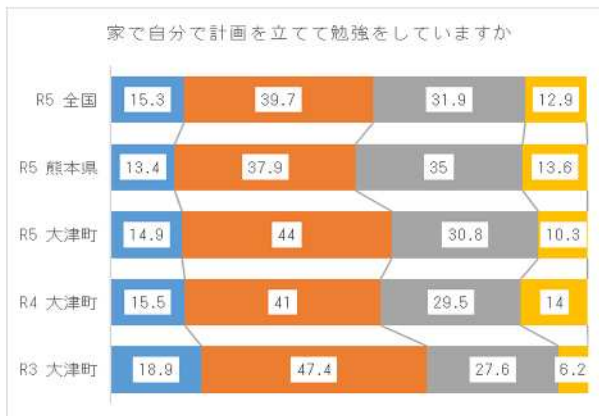
③ 主体的な学び



④ 対話的な学び、深い学び

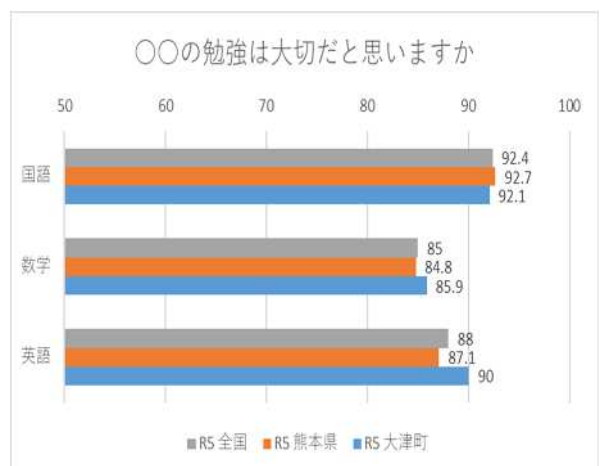
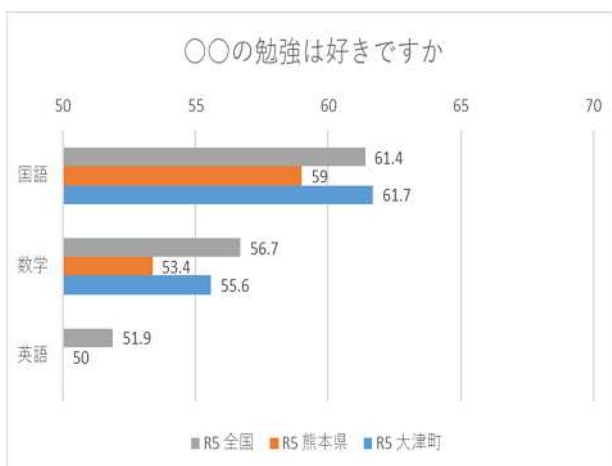


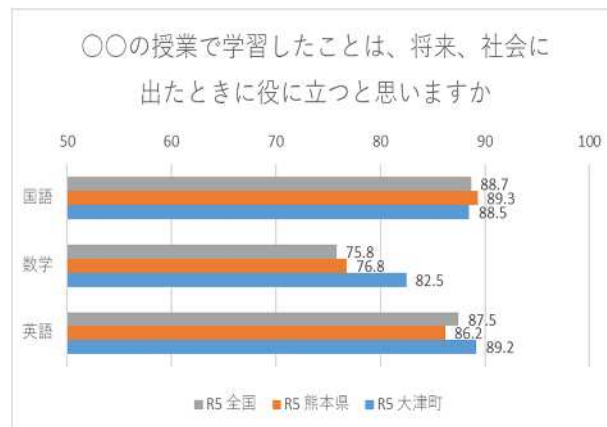
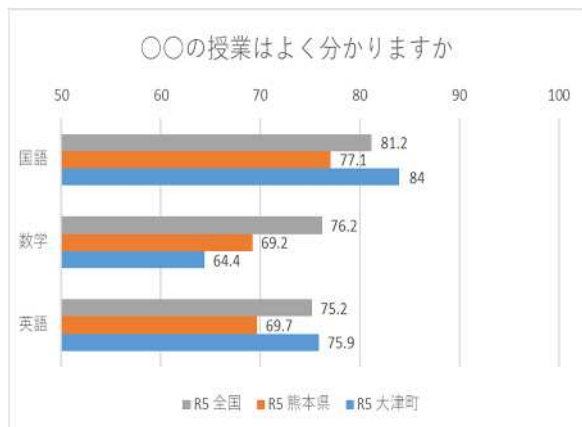
⑤ 計画性



○将来の夢については、肯定的な回答が全国や県の数値を上回った。また、前年度の大津町の結果より伸びている。加えて自己肯定感や計画性についても肯定的な回答が増えている。  
▼対話的な学び、深い学びについては、国や県の結果と比べて下回っており、前年度よりも肯定的な回答が減った。

⑥ 教科の学習について (「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)





○教科を好きか、勉強は大切だと思っている生徒の割合が多い。また「分かる」「役に立つ」についても肯定的な回答が多く、国語や英語で肯定的な回答が多かった。

▼数学に関する肯定的な回答が他教科と比べて少ないものの、役に立つという意識は高い。わ授業改善等の取組を通して、分かったという実感を伴うことで、意識の向上は図れると考える。